

「熱い」と感じる映像を

団体名 ● SMC (Seiry Movie Creator) / 代表者名 ● 田中皐楓 (経済学部経済学科 2 年)

はじめに

この活動の目的としては石川県にある銭湯を県内の方々だけでなく、県外の方々にも広く知ってもらうために石川県公衆浴場業生活衛生同業組合の方々と連携し銭湯の特徴や組合、銭湯が行っている取り組みなどの認知を拡大するためのPR動画を作成することを目的とした活動である。完成した映像は金沢星稜大学の公式 Youtube サイトや石川県公衆浴場業生活衛生同業組合の公式 HP でも見ることができる。

活動内容

今年度作成した動画は春夏秋冬に合わせて4本作成を行った。まず春の活動では、東茶屋街付近にある銭湯である「くわな湯」と小松市にある銭湯である「角湯」の取材と撮影を行い、銭湯にある温泉の成分や銭湯が行なっている取り組みに関して自分たちでまとめることができた。また、観光地である兼六園や金沢城、百万石祭りなど金沢の伝統的な文化や観光地も紹介するために盛りこんだPR映像へと仕上げることもできた。しかし、メンバー内での情報の共有不足などによって連携がうまくいかなかったことや映像内ではカメラのブレやピントのズレなど反省点も数多く残った映像制作になった。

そして夏に行った活動では2日間の撮影を行った。

夏の映像であるため海が見える銭湯である「海浜あみだ湯」や金沢市にある「金石荘」や見附島といった観光地をメインとした撮影を行った。

前回の反省を活かして行った夏の撮影では前回からの動画構成を見直し、綿密に立てることができた。

また、春の活動で問題視していたメンバー内での情報共有も撮影前に説明や参考となる動画をメンバー内で共有しておくことでスムーズな撮影につながった。そして、今回の撮影から風景を撮る際にドローンを使った撮影を行ったことやモデルの2人が自転車に乗っているシーンなど撮影は難しかったけれどもいままでとは違った目新しさを出すことにも

つながった。動画編集では映像の色を調整したり、見ている人にわかりやすいような字幕の設定など撮影した映像をただ繋げて動画にするのではなく、見ている人にとって見やすいように調整を行うといった数多くの工夫をすることができた。

結果として今では投稿した映像の中で最も多い再生回数を記録し、MRO 北陸放送局からのTV取材を受けさせていただくなどの大きな反響を得ることができ、石川の銭湯PRに大きく貢献することができたと感じる。

秋の活動では綺麗な紅葉を見ることができる那谷寺や金沢の武家屋敷などの観光地や2022年にリニューアルされた銭湯である「松の湯」と他の銭湯では類を見ないほど温泉の種類が豊富な小松市の銭湯「ピュア涌泉寺」で撮影を行った。

この活動では撮影中に雨が降ってきたりなどのトラブルがあり、うまく進まなかったところもあったがモデルの方々の提案で着物を着てもらったの撮影や銭湯内にあるサウナでの撮影など活動内で初の試みを行うといったこともあり、目新しさを出した映像に仕上げることもできた。

また、12月にはこれまで関わってくださっていた銭湯の経営者達との対談を行った。銭湯の利用者を増やすためにどのような活動をしていくべきか、今我々が行っている活動の内容や今後行っていく活動での提案など様々な意見を学生や経営陣の方々と話し合うことができ、多様な視点の意見によって活動について改めて改善やPRの手法について考えるいい機会となった。

冬の活動はこれまで作った映像を再編集し、一本化した映像を「いしかわ映像作品コンクール」への出展と「銭湯ポスターの作成」を行った。いしかわ映像作品コンクールでは結果として全16作品の中最優秀賞と石川県教育委員会賞の2つを受賞し、全国自作視聴覚教材コンクールへの出展が決まるなど大きな功績をすることができ、石川県の銭湯PRに大き

く貢献できたと感じる。

また銭湯ポスターは撮影が終了し、完成次第石川県内の各銭湯や大学へ順次掲載される予定になっている。

冬の映像は能登半島地震の影響によって撮影日程を延期して行ったが白峰総湯や白山比咩神社など雪を写して石川の冬を感じてもらえるような風景を数多く撮影することができた。また今回から出演してもらうモデルの方々も新しくなり、これまでの映像の構成とは違う新たな映像の構成で撮影に取り組んだ。また、銭湯は白山市の「千代野温泉」や金沢市の「兼六温泉」で撮影を行った。撮影メンバー全員がこれまでの経験を活かして撮影に取り組んでいたため想定していたシーンや風景の撮影、銭湯の店主の方々へのインタビューなどをスムーズに行うことができた。



今後の展望

1月に起こった令和6年の能登半島地震の影響によって石川県だけでなく富山、福井といった北陸の観光業は大きな打撃を受けることとなった。

そのため今後の活動の展望として来年度は「北陸の観光業復興の一助となるPR活動」を目標に活動を行っていきたいと考える。具体的には北陸内の観光地を巡り、その県や観光地、銭湯などの行っている取り組みや施策などを取材して震災の影響を受けた観光地に少しでも人が戻ってきたり、復興の一助となるようなPR活動を行っていきたいと考える。また来年度の活動においては映像だけにこだわらずポスターデザインや写真、SNSでの発信などさまざまなPR方法に取り組んでいきたいと感じた。今回の活動で得ることができた経験と反省を活かしてより多くの人の目を惹き、北陸復興につながるよう地域の方々やメンバーと一緒に適切なPRの手法やターゲット層をを考えるとことや個人だけでなく地域の方や学生など様々な人の意見や視点を持って今後もPR活動を行っていききたい。